

目次

ごあいさつ 7

サバイバーズ・ギルト&シエイム

13

ごあいさつ 205

もうひとつの地球の歩き方 211

あとがき または上演の手引き 401

上演記録 411

サバイバーズ・ギルト&シエーム

ごあいさつ

僕は基本的に「起きたことはしょーがない。過去をくよくよ悔やまない」という生き方を目指してきたのですが、それでも、「ああ、あの時、こーしておけばよかった」と深く後悔していることが2つあります。

そのうちのひとつが、「初監督映画」を撮った時でした。

商業用の35ミリの映画を、僕は29歳の時に監督しました。

映画の技術的な知識が何もないままで、今から言えば無謀にもほどがあるという挑戦でした。

現在と違って、カメラとは別のモニターが（映画業界はビジコンと言っていました）ついてなく、カメラマンさんがどんな絵を撮っているのか、まったく分かりませんでした。

モニター、分かりますか？ カメラで撮った絵がそのまま別の場所で見られる、つまりは小

型のテレビです。

よくハリウッドのメイキングでは、監督はモニターの前に座って、画面に映る映像を見ながら、「OK！」なんて叫んでいます。

今でこそ、日本映画もそれが普通になりましたが、僕が初監督した25年前は「画面はカメラマンが見る」という信念(?)があつて、モニターをつけることを嫌がるカメラマンが多かったです。結果として、監督はカメラマンが見ているであろう映像を想像するしかなくなります。

初監督の時、カメラマンさんからいきなり、「監督、ここは30ミリですか50ミリですか?」と聞かれて、頭の中に台風が発生しました。

なんのことも全く分からず、助監督におそるおそる聞くと、「レンズのミリ数」だと教えてくれました。

カメラが趣味の人なら分かるでしょう。ミリ数によって映(写)る範囲が変わってくるのです。んなこと、いきなり聞かれても分かるわけがないのです。でも、あの当時、日本映画界は厳しくて「そんなことが分からない奴は映画を撮るな」という空気が映画職人さんにはあったのです。

で、まあ、ひいひい言いながら映画を撮り続けていくうちに、僕は「映画って、記録していくことなんだなあ。人生を記録していくって、なんだか、死の準備をしているようだなあ」と感じ

るようになりました。

演劇は、まさに今です。今日、あなたは劇場に来てくれて、今まさに起こる芝居を見ます。僕は毎日見ているので分かりますが、毎回、芝居の印象はずいぶん違います。出演者の片桐仁さんのギャグがすべることもあるし、伊礼彼方いれいかなたがセリフをかむこともあります。

演劇は常に、今を生きることです。一瞬と対話するメディアです。

でも、映画は永遠と対話するメディアなんじゃないかと感じたのです。

人間にとって永遠とは、つまり、死のことで、映画は人間に「死ぬこと」を意識させるメディアなんじゃないかと思いました。

永遠に記録されることを意識しないまま、僕は初めての映画を撮り始めて、途中ではたと気付きました。一回撮った映像は修正できないのです。

演劇は違います。毎日、同じことを少しずつ稽古して、修正していきます。初日にうまくいかなかった所も、三日目にはできるようになることもあります。

けれど映画は、上映のたびに同じことを永遠に繰り返すのです。一度繰り返された失敗は、二度とやり直しができないのです。こんな当たり前のことが、演劇をやっていた僕には衝撃でした。

なんてやっかいなメディアなんだろうと僕は思いました。映画では失敗は許されない。記録さ

れたミスは永遠に消えない。ものすごく厳しいメディアだと感じました。

演劇のやっかいな部分は、「昨日できていたことが、今日、できないかもしれない」ということです。これはこれで映画とは別の意味でやっかいなことです。今を生きているのが演劇なので、「昨日と同じことができない」ということも普通に起こってしまうのです。

逆に言えば、映画のメリットは、「うまくいったことが永遠に記録される」ということです。演劇のメリットは、「昨日ダメでも、今日、やりなおしてうまくいく」ということです。

演劇の演出家を30年以上も続けていると、いつのまにか、日常も同じように見がちになっていることに気付きました。失敗しても、無視されても、裏切られても、「次、うまくやろう」と無意識に考えてしまうのです。もちろん、「次」なんてないことの方が多いのに。

映画監督を30年以上続けたら、「とにかく、恥ずかしいものを残さないようにしよう」と思われるかもしれません。どっちがいいとか悪いとかの問題ではないのでしょうか。

で、人生を後悔しながら生きないようにしようと思っただけなのに、「初監督映画」を撮った時は違っていました。

ああしとけばよかった、こうしとけばよかった、タイムマシンで戻って自分にアドバイスしたい、とくよくよするのは。初めて口にしますが、初監督映画は、死ぬまでに絶対リメイクした

いとずっと思っているのです。

「今を感じる」と「死を意識すること」は、ちゃんと生きるためには両方必要なことかもしれません。

この2つをバランスよく、リアルに感じ取れたら、素敵で人生になるのかもしれないと思います。と書きながら、こんな生き方を目指そうとして、人生のハードルが上がって、後悔の多い人生になったら嫌だなとも思っているのです。

今日はどうもありがとう。ごゆっくりお楽しみ下さい。んじゃ。

鴻上尚史

登場人物

水島明宏 (21歳) 戦場から帰ってきた男。大学生。

青山夏希 (24歳) 明宏がいた大学の映画研究会の先輩。

水島義人 (30歳) 明宏の兄。体が悪く徴兵検査に落ちた。

榎戸光典 (38歳) 明宏がいた部隊の上官。

水島瞳子 (52歳) 明宏の母親。

岩本雄司 (55歳) 瞳子の再婚相手。

町内会長 (女性) (55歳)

その側近 (男性) (43歳)

陸軍軍人 (35歳)

* 実際の上演では、町内会長、側近、陸軍軍人はシ
ルエットで現し、声だけで参加した。実際に登場
してももちろん構わない。最小上演人数、6人。
最大上演人数、9人である。

0 オープニング

カラオケの歌声が聞こえてくる。

(例えば、『またあえる日まで (b y ゆず)』)

同時に、戦場をさまよう水島明宏が浮かび上がる。

物憂げな顔の青山夏希が登場。

『ハッピー歌声広場』の法被を着て、カラオケのマイクで歌っている水島義人が登場。歌は彼の声だった。

食事の支度をしている水島瞳子。

自転車に乗って現れ、営業活動をする岩本雄司。

人探しの旅を続ける榎戸光典。

それぞれの登場人物が象徴的な動きを続ける。

オープニング・パフォーマンスのようなもの。

やがて、水島明宏だけが残される。

1 帰郷

玄関の前の道。

水島明宏は、陸軍戦闘服に普通の大きさのバッグ。

明宏 かあさーん！ ただいまー！ かあさーん！

返事がないので辺りをきよろきよろ。

と、農作業の格好の水島瞳子が、一輪の手押し車を押して現れる。

手押し車の上には、鍬と収穫のナスとキュウリ。

瞳子 ……明宏？

明宏 母さん。

瞳子 明宏！ 帰ってきたの！

明宏 うん。母さん、

瞳子 よく無事で！ いつまでいるの!? どこもケガしてない？ 何が食べたい？ あ、でも最

近は、お寿司とかお肉とか、なかなか手に入らないんだよ。えっ？ ママの手料理なら、

なんでもいい？ 相変わらず明宏は優しいねえ。

母さん。僕ね、

明宏 瞳子
瞳子 なんだい？

明宏 死んじゃったんだ。

瞳子 はい？

明宏 落ち着いて聞いてね。

瞳子 お前こそ、落ち着いて発言するんだよ。

明宏 僕ね、

瞳子 はいはい。

明宏 死んだんだ。

瞳子 もう一回、チャンスをあげるからね。落ち着いて言ってごらん。

明宏 おんな 同じだよ。僕、死んじゃったんだ。

瞳子 ……じゃあ、今、目の前にいるお前はなに？ (ハッと) 幽霊!?

明宏 そうみたい。

瞳子、突然、明宏の頬をぴしゃりと叩く。

明宏 ！（思わず声が出る）

瞳子 痛い？

明宏 ……痛い。

瞳子 じゃあ、生きてるんじゃないの？

明宏 戦場でね、仲間の一人が左足を吹き飛ばされたんだ。だけど、野戦病院のベッドで左足が痛いつてずっと言うの。左足はなくなってるのに、痛みを感じるの。

瞳子 ママ、それ知ってる。『ファントム・オブ・ジ・オペラ』ね。

明宏 違う。『ファントム・ペイン』。

瞳子 惜しい。

明宏 だから僕も、死んでるけど、生きてる時の記憶で痛いんだと思う。全身がファントム・ペインなんだ。

瞳子 そんな……。じゃあ、明宏は、幽霊になって帰ってきたのかい？

明宏 うん。

瞳子 ママに会いに？

明宏 うん。

瞳子 明宏。

瞳子、明宏を抱きしめる。

が、体をパンパンと叩いて、

瞳子　なんか、全然、固いんだけど。生きてる感、ピンピンだよ。

明宏　ひよっとしたら、僕、ゾンビ系の幽霊になったのかもしれない。

瞳子　ゾンビ系の幽霊？

明宏　僕も、最初、死んだことが信じられなくて、指、切ってみたの。そしたら、血が出たの。

瞳子　じゃあ、(生きてるんじゃ)

明宏　ゾンビって、死んでるのに、血がでるでしょ。

瞳子　そう？　血、でた？　ヨダレは出たよね。

明宏　ゾンビは、死んでるけど、歩くし、血は出るし、いろいろ食べるし。

瞳子　……ママには、とてもゾンビには見えないよ。(臭いをかいで)全然、臭くないし。

明宏　若いから、腐敗が遅いんだと思う。

瞳子　いつ、死んだの？

明宏　5日前。

瞳子　どこで、死んだの？

明宏　南部戦線。

瞳子　どんなふうに、死んだの？

明宏　敵の戦車にやられたんだ。

もうひとつの地球の歩き方

登場人物

- 森崎賢介 (24歳) もりさき たにかわ
谷川詩織 (27歳) たにかわ
秋庭さくら (25歳) あきはば
片桐大作 (30歳) かたぎりだいさく
鈴木清彦 (35歳) すずきはろ
来栖隼人 (25歳) くるすはやと
西村雅美 (26歳)
- 農民 1・2・3・4
(武士 1・2・3・4)
司会者
審査員達
女子高生
声 1・2・3・4 (教育現場の人々)
刑事 1・2 (声)
天草四郎に助けを求める人達
- AI天草四郎の声
記者 1・2
女子社員
男子社員
襲撃男 1・2
襲撃女 1・2
医者 (声)
- レポーター
男子中学生 1・2
女子中学生 1・2
教師 (声)

*『虚構の劇団』では、11名で上演した。最小可能上演人数は、10人ぐらいか。農民の数を2人とか3人、中学生を3人以下にすれば、9人でも可能だろう。最大は、一人一人に役を振れば、30人前後になるであろう。(声)と表記しているのは、上演のための方法である。実際に医者や刑事が登場してももちろん問題ない。

マスコミ向け発表会場の片隅。

来栖隼人がマイクを持って登場。

来栖

「シンギュラリティ」！ もう、あっちもこっちも、「シンギュラリティ」！ おはようの代わりに「シンギュラリティ」！ 好きだよの代わりに「シンギュラリティ」！ こんにちは、俳優の来栖隼人です。最近、あちこちで耳にする「シンギュラリティ」！ みなさんにご存知でしたか？ 今日は、「シンギュラリティ」に関連した面白いイベントがあるというので、やってきました。トアッドハート社長、片桐大作さんにお話を伺います。

片桐大作、登場。

片桐

こんにちは！ トアッドハート社長の片桐大作ですっ！

来栖

お元気ですね。

片桐

「熱い、若い、速い！」これが我が社のモットーです。今日はようこそいらっしゃいませ

たー(と、近づく)

来栖 「熱い、近い、うざい?」

片桐 「熱い、若い、速い!」なんですか、うざいって。たしかに対人距離が近いって、社員に

もよく言われますけど、うざいはないですよ。(と、近づく)

来栖 さっそくですが「シンギュラリティ」っていうのはどういうことですか?

片桐 マイペースだなあ。

来栖 「シンギュラリティ」っていうのは?

片桐 日本語では「技術的特異点」と訳されてるね。

来栖 「技術的特異点」?

ざっくり言えば、コンピューターが爆発的に進化して、人間を越える瞬間だね。

片桐 そんなことが起こるんですか?

片桐 アメリカの未来学者、レイ・カーツワイルは2045年にコンピューターが人間の知能を

持つようになるだろうと言ってるね。

来栖 2045年。

片桐 特定の分野では、すでに人間を越えてるよね。囲碁も将棋もチェスも。2045年には人

間そのものも越える人工知能が生まれるのだよ!

来栖 しかし、完全な人工知能を開発できたら、それは人類の終焉を意味するんじゃないです

か?

片桐 古い！ 固い！ 臭い！ そんなことを言っていたら、進歩から取り残されちゃうよ。

来栖 いえ、これは科学者のステイブン・ホーキンスの言葉です。

片桐 ……知ってますよ！ それぐらい！ なんですか、あなたも人が悪いなあ！ 分かって聞
いてるの？

来栖 ビル・ゲイツは「なぜ人々が人工知能の恐怖について考えないのか理解できない」と言っ
てます。

片桐 それがビルの限界だね。卒業式のスピーチも面白くないし。

来栖 しかし、人工知能が暴走したら、

片桐 暴走できるような汎用人工知能を早く創りたいねえ。でも、今は特化型人工知能だ。

来栖 どういうことですか？

片桐 汎用人工知能ってのは、万能のなんでもできるタイプさ。ちょっと違うけど、強いAIな
んて言い方もある。これはまだまだ、先だ。今は特化型。弱いAI。囲碁したり作曲した
り薬選んだり、特定の目的のためだね。

来栖 片桐さんの会社では？

片桐 聞いて驚け。私達は、天草四郎の人工知能を開発した！

来栖 天草四郎!?

片桐 知ってる？

来栖 そりゃ、有名ですからね。

片桐

A I 天草四郎。限りなく汎用型はんようがたに近い天草四郎の人工知能だね。

来栖

A I 天草四郎。どういふことなんですか!？ もうちよつと詳しく。

片桐

だからね、

別空間に、森崎賢介と谷川詩織が浮かび上がる。

谷川

大丈夫。とりあえず、今日を乗り切ればなんとかなるから。

森崎

うまく行けばいいけど。

谷川

そんな弱気な発言。

森崎

質問しただいね。賭けだよ。

谷川

うん。……体調はどう？ 頭、痛くない？

森崎

興奮してるから、それどころじゃないみたい。

谷川

賢介は本来、上がり症なんだよ。

森崎

じゃあ、今の方がいいな。

と、上司の鈴木清彦が登場。

鈴木

おお！ 谷川たにかわ！ もう準備はいいのか？（鈴木だけが「たにかわ」と呼びます）

谷川 はい。すべて終わってます。

鈴木 どれぐらい集まった？

谷川 テレビ局が3社、新聞が4社、雑誌とネット関係で20社です。今、片桐社長が、ネットテ

レビの事前取材を受けてます。

鈴木 いいぞお！ プロジェクト本部も大喜びだ！ よし、森崎君。頼むよ！

森崎 はい。がんばります。

鈴木 がんばるのは当たり前。結果を出すのがプロ。分かってる？

森崎 はい。

鈴木、去る。

谷川 成功したら自分の手柄だつて自慢しまくるよ。

森崎 失敗したら？

谷川 私達の責任になるね。

と、秋庭さくらが入ってくる。

秋庭 森崎さん。社長が呼んでます。

森崎 分かった。

谷川 じゃあ、森崎さん、がんばって。

森崎 はい。谷川さんも。

谷川 後で美味しいビールが飲めますように。

森崎 祈ってて。

森崎、去る。

谷川 大丈夫。きつとうまくいくよ。

秋庭 はい。

谷川、秋庭と一瞬、目があう。

暗転。

鴻上尚史 (こうかみしょうじ)

1958年愛媛県生まれ。

早稲田大学法学部卒業。在学中に劇団「第三舞台」を結成、以降、作・演出を手がける。1987年『朝日のような夕日をつれて'87』で紀伊國屋演劇賞、1992年『天使は瞳を閉じて』でゴールデン・アロー賞、1994年『スナフキンの手紙』で第39回岸田國士戯曲賞、2009年「虚構の劇団」旗揚げ三部作『グローブ・ジャングル』で読売文学賞戯曲賞を受賞する。2001年、劇団「第三舞台」は2011年に第三舞台封印解除&解散公演『深呼吸する惑星』を上演。桐朋学園芸術短期大学特別招聘教授。現在は「KOKAMI@network」と「虚構の劇団」を中心に活動。また、演劇公演の他にも、映画監督、小説家、エッセイスト、脚本家としても幅広く活動。近著に、『朝日のような夕日をつれて [21世紀版]』『ベター・ハーフ』『イントレランスの祭／ホーボーズ・ソング』（以上、論創社）、『ロンドン・デイズ』（小学館文庫）、『青空に飛ぶ』（講談社）、『不死身の特攻兵 軍神はなぜ上官に反抗したか』（講談社現代新書）など。

●上演に関するお問い合わせ

サードステージ

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場 3-1-5

サンパティオ高田馬場 102

電話 03-5937-4252

<http://www.thirdstage.com>

●劇中曲一覧

「生きてることが辛いなら」

作詞：御徒町凧／作曲：森山直太郎

JASRAC 出 1807976-801

「人にやさしく」

作詞・作曲：甲本ヒロト

JASRAC 出 1807976-801

サバイバーズ・ギルト & シェイム／もうひとつの地球の歩き方

2018年 8月15日 初版第1刷印刷

2018年 8月25日 初版第1刷発行

著 者 鴻上尚史

発行者 森下紀夫

発行所 論創社

東京都千代田区神田神保町 2-23 北井ビル

電話 03(3264)5254 振替口座 00160-1-155266

装丁 函工ファイブ

組版 フレックスアート

印刷・製本 中央精版印刷

ISBN978-4-8460-1729-3 ©2018 Shoji Kokami, printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします